

# みくびだより



## 御挨拶

謹啓 師走の候皆様方に於かれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

天皇・皇后両陛下におかせられては、去る十月三日高松市に於いて「第二十四回全国豊かな海づくり大会」に御臨席賜り、八月以来の台風の影響で、香川県を含む各地が多大な被害を蒙ったことに触れられ、亡くなった人々の遺族や災害を受けた人々の悲しみや苦勞に深く思いを致しております。皆が協力して災害から順調に復興することを願っております。皆が協力して災害から順調に復興することを願っております。皆が協力して災害から順調に復興することを願っております。皆が協力して災害から順調に復興することを願っております。

伊勢神宮では、第六十二回式年遷宮に向けて、去る九月に新正宮の建てられる御敷地（古殿地）が公開され、平成十七年より山口祭を始め、御木曳き行事など諸行事が本格的に進められます。全国神社が本宗と仰ぐ神宮の式年遷宮に深いご理解とご奉賛を賜りたいと存じます。

又、近年世界的な異常気象が叫ばれています。今年も国内では夏の猛暑に始まり、福井・新潟の集中豪雨そして浅間山の噴火、秋には数多くの大型台風により、全国に渡って未曾有の被害を受けました。神社界でも広島県の厳島神社の国宝の倒壊など、全国で二百社に上る被害を蒙りましたが、九年前の阪神・淡路大震災の経験から、一般ボランティアの方も神社の復旧を温かく支援して頂き、誠に感謝に堪えません。

尚、当神社の絵馬堂前の柵の老朽化が進んでおりましたが、この度崇敬会会員の皆様のご奉納により新しく立派に甦り、一段と境内の環境整備が進みましたことは誠に有難く、厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、皆様方には益々の御健勝と御多幸を祈念致しまして、御挨拶とさせていただきます。

## 『天国と地獄』

「この世に生を享けた人間は死んだらどうなるのか、そして天国や地獄はあるのか無いかという問題になれば、だれしも大なり小なりの関心はあるようです。何故ならば、それは直接自分に関係があるからなのです。」

死後、人間の肉体が無くなっても魂は無くならないということになれば、天国や地獄が有るかどうかは大きな問題となります。しかし、反対に魂も肉体が滅びてしまえば、すべてが「無」であると考えますと、天国も地獄も関係がありません。

天国や地獄について一番厳しくするのがキリスト教であります。それは、死後に神様の審判が下るという考えからです。この死後の審判という思想は、古代ギリシャの哲人ソクラテスの弟子プラトン



にもあつたのです。

「この世の中には正義があるというが、現実には権力のある悪人が多くの人を支配し、人を騙してまでも自己の利益をむさぼる。正直者が馬鹿を見るという例はいくらでもある。こういう不公平で正義に反する世の中の実態をどう考えるか」これに対してプラトンは善悪について「その結果、損をすとか得をすとかという観点から判断すべきではない。善いことはあくまで良く、悪いことはあくまでも悪いのである。善悪というものは、生きている人間の魂に関係のあることであつて、善いことをすれば（例えば）魂に白い色が付き、悪いことをすれば黒い色が付く。死ぬと肉体は滅びるけれど、魂は不滅である。魂は人間が生きている間の行為の善悪に従つて白い魂は天国へ行き、黒い魂は地獄へ行く。そこで、よい魂は来世それに相応しい肉体を借りて再びこの世に出てきて幸せを受け、悪い魂はその反対に不幸に見舞われて苦しまなければならない」といつている。

善い行為をする人がこの世で幸福になり、物質的にも精神的にも恵まれるのであれば非常に結構であります。現実がそのようでないため、それを是正しようとして天国と地獄という考えが生まれてきたのです。例えば曲がつたことの出来ない正しい人が、そのために恵まれない生活を送っているとします。そうした矛盾に我慢出来ないで、こうした不公平を裁くものがなければならぬ。それが神様であり、天国と地獄だということになります。

人間は悪い行為だと承知しながら、なかなか改めることはしない動物であります。こんなときに「死ねば地獄へ行くぞ」と脅かせば簡単にやめる人が多い。又、善いことをする人には死後天国に行けるといえば、それだけで大きな慰めと安心感を得ることが出来る。つまり、天国とか地獄というものは死後のことをいつているようですが、実は生きている人間に対して、どう生きることが神様の心に適った生き方であるかを教えているのではないのでしょうか。

神様の教えを素直に受けて通れば自然と運命が開けてくるはずで

あります。しかしなかには幸運に見放され、不幸な一生を過ごす人が稀にはありますが、その報われぬ努力は次の世代の子孫に「余徳」として受け継がれ、やがては花開くときが来ることでしよう。

仏教では天国のことを極楽と呼んでいます。極楽は西方十万億土の彼方にあるという。西方とは太陽の没する彼方、人生の終焉の彼方を指しています。経本のひとつ、阿弥陀経には「コレヨリ西方十万億、仏土ヲ過ギテ世界アリ。ソノ土ニ仏マシマス。阿弥陀ト号シタテマツル。今現ニマシマシテ説法シタマフ。舍利仏、彼ノ土ヲ何ガ故ニ名ツケテ極楽トナス。ソノ国ノ衆生、モロモロノ苦アルコトナク、タダモロモロノ楽シミノミ受ク。故ニ極楽ト名ツク」とあります。又、地獄では針の山に登ったり、舌を抜かれたり、血の池に沈められたりするといわれている。明らかに肉体に加えられる苦しみであります。人間は肉体があつてこそ喜怒哀楽を味わうことが出来る訳ですが、肉体を失った魂だけが楽しみや苦しみをどのようにして感ずるのだろうか？理解に苦しむところです。

神道で言う死者の靈魂は、いったん黄泉国へ行きます。そこは暗く恐ろしい所ですが、遺族の心を籠めた葬祭によつて一定の年月を経た後に永遠不滅の静かな常世の国に移り、そこに永住する。そのとき靈魂は先祖の霊と一体となり、祭りをすることによつてこの世にお迎え出来ると言つ考えであります。

人間は誰でも死を怖れる。何故ならば、死ねば自分というものが「無」になつてしまふかも知れないという恐怖です。従つて人間は死にたくない。死にたくないが死なないわけにはゆかないのですから、どうせ死ぬのなら希望をもつて死ねたらいいと思う。それは肉体が減んでも魂は生きるといふ希望であり、その魂は次に巡り来る人と組み合わされ、再びこの世に生を享けるのです。

幸いにも私たちは神様の祝福を受けてこの世に生まれ、苦楽を共にしながらも生きること感謝し、報恩の誠を尽くして幸福な家庭づくりを目指していますが、少しでも神様の心に適つた生き方を勉強し、悔いのない生涯を送りたいものです。

禰宜 上松雅之

## ちよつと一言

こんにちは。社務所より一言御案内申し上げます。

新年から二ヶ月程経つて参拝のお方から「古い飾りを持ってきたのですが、どのようにしたら・・・」というお尋ねがよくありますので、今回は飾り等の返納について申し上げます。

各ご家庭で一年間お飾りされた飾り等は、一月の中旬に各神社で行われる左義長神事の際にお焚き上げ頂くのが一般的です。

当社では毎年一月十五日（曜日に関係無く）午前十時より境内に於いて、近郊の参拝者の飾り・古い神札・返納御守り等のお焚き上げの左義長神事を執り行つております。

当社から頒布しました注連縄は別として、飾りを前もつてお預かりするということはいた

しておりません。その為か、拝殿前の返納箱や絵馬堂に飾り等を置いて行かれる方が目立ちます。

当社といたしましては常時皆様から飾りをお預かりしますと膨大な量になり、保管するのが大変困難となりますので、飾りや熊手等は左義長当日（一月十五日）にお持ち頂いてお焚き上げ下さい。

尚、お焚き上げの都合上、ビニールや金属類は予め外してからお持ち頂きますようお願い申し上げます。

権禰宜 永井 雅和



# 祭事報告

西宮神社例祭(相殿)七月 十七日午後三時  
 末廣稻荷神社例祭 八月 八日午後三時  
 夏越大祓 八月 八日午後三時半  
 真夏の太陽の下、多くの氏子崇敬者の見守  
 る中で厳肅に斎行され、皆様方が罪・穢れを  
 託されました「人形」は、被い清められた後  
 祭員の手により忌み火にてお焚き上げし、続  
 いてお被い所役を先頭に宮司以下奉仕祭員・  
 総代・参列者の順に左右左と茅の輪をくぐり  
 夏越大祓を納めました。



長寿祈願祭 九月 十五日午後四時  
 神明神社例祭 十月 十七日午後三時



七五三参り 十一月一日〜三十日

我が国では、現代のように医療の発達して  
 いない時代で三歳・五歳・七歳を迎えること  
 は大変な慶びであり、無事七五三の年齢を迎  
 えられた時には、家族揃って氏神様に無事成  
 長の感謝を奉告し、今後益々健やかな成長を  
 祈願してきました。七五三は、一般的には数  
 え年で参拝されますが、近年は数え年に拘ら  
 ず、満二歳から七歳の間に「ご祈禱を受けられ  
 るお子様が増えてきております。

今年も十一月末日迄毎日のように七五三の  
 お参りがあり、週末には晴れ着姿の可愛らし  
 いお子さんが多く、特に十四日(日)には記  
 念写真の撮影や、コリントゲームに興ずる子  
 供たちで終日賑わいを見せていました。

崇敬会大祭 十一月三日 午後二時  
 新嘗祭 十一月二十三日午後三時  
 権禰宜 大野 弘樹

## 崇敬会入会のご案内

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬され  
 る方は、どなたでも入会出来ますので御参拝  
 の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便に  
 ても受付できますので、申し込み用紙を御請  
 求頂ければ、お送りさせていただきます。

### 会員の特典(抜粋)

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈禱が行われ、神符が授  
 与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭には御案内  
 申し上げ、大祭特別祈禱神符及びお供え  
 等が授与されます。
- 一、夏越、年越大祓には御案内申し上げ、ご  
 祈禱致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になりますと  
 会員は昇殿参拝が許されます。

## 退任職員挨拶

御首神社に奉職致しまして足掛け二十年に  
 なりますが、このたび定年の為、祢宜職を退  
 任することになりました。長年に亘り多くの  
 方々にご指導・ご鞭撻を賜り、誠に有難く厚  
 く御礼申し上げます。

今後は未熟ではあり  
 ますが、陰ながら後進  
 の指導・助言に努めた  
 いと存じます。長い間  
 有難うございました。



禰宜 上松 雅之

## かいひ けんせん 開扉と献饌について

全国には大小合わせて凡そ八万の神社があります。神社には鳥居・拝殿があり、その奥に神様のお静まりになる本殿が建っているというのが一般的です。その本殿の御扉を開けることを「開扉」と言い、大祭（例祭など重大なお祭り）には開扉を行います。普段御扉は閉じられています。

仏教では年に一回「御開帳」といって、ご本尊を公開しますが、神道ではそのような行方は致しません。ましてやご神体を拝するとすると、その神社の宮司といえども簡単には



許されておりません。一般家庭における神棚でも、「ご神符」はいつも清浄を保たなければなりませんので御扉は常時閉めておいて頂き、「ご神符」の取り替え時のみ御扉を開けて下さい。

神社で神様にお供えする物としては、住屋（社殿）・衣料（幣帛）・食料（神饌）の三つが基本であります。中でも食料（神饌）を献することは普遍的で、祝詞の奏上と共に祭りの中心的儀式であり、神饌を献ることを「献饌」と言い、その品目として大祭では概ね和稻・荒稻・酒・餅・海魚・川魚・野鳥・水鳥・海菜・野菜・菓・塩・水などですが、中・小祭ではこれより少し簡略した物を献ります。大祭でも中・小祭でも、お祭りの奉仕に当たり、神様へ日々の感謝の気持を真心込めてお供へをします。そして神様がお召し上がりになった食物を人々がいただくことで、御神徳を戴くことが出来る訳で、この神人共食により、神様と人が一体となることを直会と云います。

ご家庭での日常のお供へとして、一般的には米・酒・塩・水ですが、ご家族の記念の日やお誕生日など特別の日には、当地の特産品や栽培された野菜などの初物、その他珍しい品物、又旅行などから帰られた時には、無事を感じてお土産などをお供へされるようお勧め致します。何れにしましても真心を籠めてお供へされたなら、必ずご神徳が戴けることと思えます。

権禰亘 大島 洋紀

## 『御首神社』ホームページ リニューアルのお知らせ

平成十二年八月に初めてホームページを開設して以来、三万七千人を超える方の訪問があり、今年の夏の開設四周年に併せ、ホームページを全面リニューアルいたしました。

この度のリニューアルは、従前のデザインを大きく変更するのではなく、慣れ親しんだ形の変更を最小限にとどめ、且つ新たなページ（神棚のいろはなど）を



追加作成いたしました。

今回も神職による手作りのため、まだまだいたらぬ所が有るとは存じますが機会がございましたら是非一度ご覧になっていただければ幸いです。



ホームページアドレス [www.mikubi.or.jp](http://www.mikubi.or.jp)

権禰亘 大野 弘樹

# 祭事案内

**年越大祓** 十二月三十日 午後三時  
 皆様、今年半年間の罪穢れを託された人形を忌火にてお焚き上げし、罪穢を払いやる大祓神事を斎行致します。年末は何かと気忙しくなりますので、人形は早めに社務所へお持ち頂くか、ご郵送下さい。

元旦祭 一月一日 午前0時  
 左義長 一月十五日 午前10時

各ご家庭で一年間、神棚にお祀りされました御神符や注連縄又、御守護を戴いた御守りや御神砂、或いは正月飾りや縁起物等をお焚き上げる神事でありませう。

尚、鏡餅やみかんは、お焚き上げ出来ませんので、召し上がって頂くかご自宅で処分して頂きます。又、ビニール袋や異臭の発生する物は、お持ち帰り下さい。



**淨火祭** 二月三日 午前10時  
 皆様方から奉納された祈願絵馬や帽子又、御神前に奉つて頂きました金幣串や返納された紅白串を厄男達がお焚き上げし、心願成就を願う神事でありませう。

**祈年祭** 二月二十日 午後三時  
**御鞆神社例祭** 三月十七日 午後三時  
**例大祭** 四月二日 午後三時

**前夜の試楽祭** 試楽祭では氏子の子供達による打囃子の奉納があり、当日は子供神輿の巡行や境内の特設舞台では演芸が催され、午後三時には神事が厳肅に斎行されます。又、夕方には境内の提灯に火が一斉に灯され、幻想的な社殿が浮かび上がり、拝殿前では子供達による御礼の打ち囃子の奉納で、お祭りが終了致します。



**南宮神社例祭** 五月四日 午後三時  
**お田植え祭** 六月初旬  
**農休み祭** 六月十九日 午後三時

権禰宜 高田 豊彦

## 厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳  
 女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くなります。

前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。厄年に当たるとは勿論のこと、厄年に当たらない方も、日々を平穩に過ごすためにも、一年に一度は厄祓いの御祈禱をお受けになりますよう、お勧め致します。

平成17年厄年に当る生れ年			
	前厄	本厄	後厄
男子	42歳 昭和40年	昭和39年	昭和38年
	25歳 昭和57年	昭和56年	昭和55年
女子	33歳 昭和49年	昭和48年	昭和47年
	19歳 昭和63年	昭和62年	昭和61年

## 御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一  
 TEL(〇五八四)九一三七〇〇

ホームページ [www.mikubi.or.jp](http://www.mikubi.or.jp)

Eメール [syannusyo@mikubi.or.jp](mailto:syannusyo@mikubi.or.jp)